

附属図書館特別図書展

科学技術と
古代の
典



東海大学附属図書館第57回展示会
2014年7月3日(木) - 8月1日(金)
東海大学附属図書館
湘南校舎11号館 1階 附属図書館展示室

～ 最近の展示 ～

- 2009年 6月 日本の印刷史と装丁のおもしろさ
10月 外国から見た日本 ー幕末から明治初期ー
- 2010年 6月 ノーベル物理学賞1901-1950
～近代科学に影響を与えた科学書と共に～
11月 豊道春海先生作品展
- 2011年11月 悠久のナイルと人々～鈴木八司古代エジプトコレクション展
- 2012年 5月 國文學の傳燈 写す・読む・伝えるー桃園文庫の世界ー
- 2013年 6月 語り継がれる書物たち

展示にあたって

今回の展示では、本学附属図書館所蔵の天文・生物・植物・建築分野を中心とした資料をご紹介します。

現代では、インターネットの普及によって様々な情報や写真を容易に入手でき、また、コンピュータを使った編集・印刷・製本技術の発達により、誰でも出版が行える時代になりました。

それに対して、今回の展示に見られるような古典資料は、当時の人々が時間と手間と技術、さらに情熱と財産をつぎ込むことで生み出されました。

今回の展示資料から例をあげると、ナポレオンが遠征先のエジプトで、シーボルトが極東の国日本で、遠く離れた異国の珍しい世界を記録・収集しています。そのおかげで文化や学問、技術、自然などが受け継がれ、私たちも当時の人々の心的一端に触れることができます。

また、美しい彩色や緻密に描かれた図版、日欧の文化や環境に起因する書物の形態のちがいなど、様々な視点からも楽しめる展示となっています。

日頃は目にすることができない歴史的な文化財としても貴重な資料をご堪能いただけたら幸いです。

1. Encyclopaedia Britannica : or, A dictionary of arts and sciences, compiled upon a new plan in which the different sciences and arts are digested into distinct treatises or systems, and the various technical terms, etc., are explained as they occur in the order of the alphabet / by a society of gentlemen in Scotland

国際的な英語の百科事典である、1768年から刊行が開始された『ブリタニカ百科事典』の1771年刊行版。最初はイギリスで、のちアメリカで発行されている。1768～71年にエジンバラの銅版画家のベル(Andrew Bell)が印刷業者のマックファーカー(Colin Macfarquhar)と共同で、100分冊各冊6ペンスで百科事典を発行したのが始まりである。この時代のイギリスは、ちょうどブルジョアジーの勃興期にあったため、紳士の教養を要求する階層に支持された。第10版はビクトリア女王時代を代表とする百科事典となった。これは、丸善によって日本にも輸入され、『大英百科全書』として広くわが国の学者に知れ渡った。

2. Description de l'Égypte : ou, Recueil de observations et des recherches qui ont été faites en Égypte pendant l'expédition de l'armée française / publié par les ordres de Sa Majesté l'empereur Napoléon le Grand ; [France.]

1798年、イギリスのインド航路遮断を狙ったナポレオン・ボナパルトは、5万の軍勢を率いて航路の経由地であるエジプトへと上陸した。イギリス海軍ネルソン提督の抵抗により遠征に失敗したナポレオンはエジプトに留まることになった。この際ナポレオンは物理学者ガスパール・モンジュ、ジョゼフ・フーリエらから成る160名あまりの学術調査団を同行させ、エジプトの遺跡や動植物の研究にあたらせた。その成果をまとめたのが本書『エジプト誌』である。1809年から1822年にかけて分冊出版された『エジプト誌』は、様々な形態や分冊数のものが流布しており、当館所蔵のものは第二版を含む全21巻本。銅版印刷に手彩色された図版は当時最高の技術者を集めて作成されている。

3. Physiologia Kircheriana experimentalis, qua summa argumentorum multitudinem & varietatem naturalium rerum scientia per experimenta physica, mathematica, medica, chymica, musica, magnetica, mechanica comprobatur atque stabilitur : quam ex vastis operibus / Adm. Revdi. P. Athanasii Kircheri, extraxit, & in hunc ordinem per classes redegit Romae, anno M.DC.LXXV ; Joannes Stephanus Kestlerus Alsata

アタナシウス・キルヒャーの行った実験の数々を、弟子のケストラーによって簡単に列挙した教科書的著作。書名のPhysiologiaは生理学と訳せるが、『キルヒャーの実験科学』と呼ばれることもある。アタナシウス・キルヒャーはドイツのイエズス会士。フルダ近郊のガイザに生まれ、ローマにて没す。ヴェルツブルグ大学で哲学・数学・東洋語を講じたのち、各地を転々、1635年以降はローマで著作活動に没頭する。論考の対象は自然科学全般、考古学・言語学・音楽等極めて多岐にわたる。

4. C. Plinii Secvndi Natvrae historiarum libri XXXVII E castigationibus Hermolai Barbari : Qvam emendatissime editi / Additus est ad maiorem studiosorum commoditatem, index Ioannis Camertis Minoritani, quo Plynius ipse totus breui mora temporis edisci potest

古代ローマの博物学者ガイウス・プリニウス・セクンドゥス(大プリニウス)の古典『博物誌』全 37 巻を 1 冊にまとめたもの。プリニウスは帝政期ローマの軍人、行政官、歴史家、博物学者。大プリニウスとも呼ばれる。裕福な騎士を父として北イタリアの小都市コムム(現、コモ)に生まれ、軍人となり、主として北方ゲルマニアで勤務した。その後、法廷活動に従事するかたわら歴史、文法、修辞学などを研究した。天文、気象、地理、人類、動植物などを解説した有名な『博物誌』37 巻のほか、多くの著作がある。

数学・物理・化学

5. Α ρ χ ι μ η δ ο υ σ παντα σωζόμενα = Archimedis opera quae extant : novis demonstrationibus commentariisque illustrata per Davidem Rivalentum a Flurantia

アルキメデスの学説についてフランスの数学者リヴォールが解説した書。リヴォールはアンリ 4 世及びルイ 13 世の教育係であった。アルキメデスは紀元前のギリシャの数学者・物理学者。積分法の先駆となる放物線・円・球などの求積法、アルキメデスの原理の発見、揚水機の発明、てこ・重心の原理の解明など多方面にわたって活躍した。

6. Euclidis Megarensis, philosophi acutissimi mathematicorumque omnium sine controuersia principis opera Campano interprete fidissimo tralata Que cum antea librariorum detestanda culpa mēdis fedissimis adeo deformia esēnt: ... / [edited by Luca Pacioli]

紀元前 3 世紀前半、ギリシアの数学者・物理学者であったエウクレイデス(英名ユークリッド)がギリシア数学を集大成し、幾何学論を展開したものが『原論』である。ギリシア語で書かれたこの著作は後にアラビア語訳され、12 世紀にはラテン語訳された。イタリアの数学者ヨハネネス・カンパヌスがラテン語訳に注釈をつけたものが「カンパヌス版」と呼ばれ、展示の資料はこのカンパヌス版に同じくイタリアの数学者であるルカ・パチョーリが解説を加えたものである。書名『メガラのエウクレイデス』は、当時同名の哲学者とエウクレイデスが混同されていたことによる。

7. 算法根源記(サンポウ コンゲンキ) / 佐藤正興編

江戸時代初期の和算家の佐藤正興(サトウ マサオキ)による天元術を用いた計算法の書。名高い和算書だった磯村吉徳の万治 2 (1659) 年刊『算法闕疑抄(サンポウ ケツギショウ)』と、野沢定長の寛文 4 (1664) 年刊『童介抄(ドウカイショウ)』の遺題各 100 題に対して、それぞれの解答を載せて刊行したものである。本書の上巻は『童介抄』の遺題 100 問の解答、中巻は『算法闕疑抄』の遺題 100 問に対する解答が示されている。『童介抄』も『算法闕疑抄』も原文は和文(漢字仮名交じり文)だったが、『算法根源記』ではすべて漢文に改めている。

8. *Traitez de l'equilibre des liqueurs, et de la pesanteur de la masse de l'air : contenant l'explication des causes de divers effets de la nature qui n'avoient point esté bien connus jusques ici, & particulieremēt de ceux quel'on avoit attribuez à l'horreur du vuide / par monsieur Pascal*

著者ブレーズ・パスカルはフランスの数学者、物理学者、哲学者。数学的確實性を信じ、懐疑論に反対。のち宗教的回心を経てヤンセン主義に共鳴し、イエズス会による異端審問を批判した。思想的には現代実存主義の先駆とみなされる。数学では、円錐曲線論・確率論を発表、物理学では、流体(液体・気体)の圧力に関する法則「パスカルの原理」を発見するなど多くの科学的業績を残した。キリスト教弁証論を書くための覚え書きが死後『パンセ』としてまとめられた。その中の「人間は考える葦である」という言葉は有名である。本書は彼による力学の書。流体静力学の基礎原理「パスカルの原理」が前半部分で説明されている。

9. *Opticæ thesavrvs. : Alhazeni Arabis libri septem, nuncprimùm editi. Eivsdem liber De crepvsclis & nubium ascensionibus. Item Vitellonis Thvringopoloni libri x. Omnes instaurati, figuris illustrati & aucti, adiectis etiam in Alhazenum commentarijs, à Federico Risnero. / [Alhazen]*

現在のイラク南東部の都市バスラ出身の物理学者イブン・アル＝ハイサム(ヨーロッパではアルハーゼン/Alhazen と呼ばれた)による光学の書。水晶体が物体をとらえる構造や、光の反射・屈折について詳細な実験結果を交えて展開されている。1015年から1021年にかけて執筆され、12世紀から13世紀頃にはヨーロッパでラテン語に翻訳されて大きな影響を及ぼし、16世紀に至るまで、この書を超える研究はなかった。

10. *Mémoires sur l'action mutuelle de deux courans électriques, sur celle qui existe entre un courant électrique et un aimant ou le globe terrestre, et celle de deux aimans l'un sur l'autre. Lus à l'Académie royale des sciences / par M. Ampère*

フランスの物理学者・数学者アンペールによる電気と磁気の実験書。この実験によってアンペールは電流の流れる導線間に力が作用することを発見し、数学的に解析、電流と磁気に関する「アンペールの法則」を導き出した。これにより電磁気学の基礎が築かれた。電流の単位「アンペア」は彼の名に由来する。

11. 舎密開宗(セイミ カイツウ) / [ウィリアム・D・ヘンリー原著] ; 宇田川榕菴重 [譯増註]

江戸時代末期、日本初の体系的化学書。イギリスの医師であり化学者のウィリアム・ヘンリーの著書『*An Epitome of Experimental Chemistry*』を蘭学者の宇田川榕菴(ウダガワヨウアン)が翻訳したもの。原書のドイツ語訳書をさらにオランダ語訳したものからの重訳。その内容は、ラボアジエ化学体系、デービーやベルツェリウスの電気化学等の成果を取り入れている。訳者・榕菴が行った実験についても書かれており、彼の研究書ともいえる。本書で使われている用語の多くが、今も使われていて、その後の日本の化学分野に大きな影響を与えたことがわかる。

12. Preclarum summi in astrorum scientia principis Alchabitij opus ad scrutanda stellarum magisteria isagogicum pristino candori nuperrime restitutum ab excellentissimo Doctore Antonio de Fantis Taruisino. qui notabilem eiusdem auctoris libellum de planetarum conjunctionibus nusquam antea impressum addidit et pleraque scitudignissima cum castigatissimo Ioannis de Saxonia commentario

10 世紀の占星術師アル=カビーシー(ヨーロッパではアルカビティウス/Alcabitius)による占星術の書に、ザクセンのヨハンネスが注釈を加えたもの。アル=カビーシーは現イラク出身で、天体と地球の関係から、人間の運命や未来に起こる出来事を読み取れるとした判断占星術の著作を残し、中世からルネサンス期の西洋天文学に影響を与えた。

13. Galilæi Galilæi lyncei, academiae pisanæ mathematici, Seren[mi]. Magni-Ducis heetruriae philosophie et mathematici primarii Systema cosmicum : in quo dialogis IV. de duobus maximis mundi systematibus, Ptolemaico & Copernicano, rationibus vtrinque propositis indefinitè disseritur. Accessit locorum S. Scripturae cum terrae mobilitate conciliation

イタリアの物理学者・天文学者ガリレオ・ガリレイによる地動説の啓蒙の書。日本では『天文対話』の名で知られる。三人の架空の人物による対話という形式で、プトレマイオスによる天動説を批判し、コペルニクスによる地動説を弁護した。本書は当時禁じられていたコペルニクスの学説を支持するものである事を理由とし、刊行された 1632 年のうちに発禁処分となった。ガリレオは宗教裁判にかけられ、有罪判決を受けた。翌 1633 年、教皇ウルバヌス八世と異端審問所は『天文対話』を禁書とした。イタリアでは流通を止められたものの、教皇庁の権威が及ばないオランダやフランスでは何度か刊行されており、展示の資料は 1640 年にリヨンで出版されたラテン語版である。

14. Theoria motus corporum coelestium in sectionibus conicis solem ambientium / auctore, Carolo Friderico Gauss

ドイツの数学者・天文学者カール・フリードリヒ・ガウスによる天体学と数学に関する書。この著作によってガウスの数学と科学に関する名声が確立された。日本では『天体運行論』や『天体運動論』の名で知られている。ラテン語で記述されており、1801 年に発見された小惑星ケレスの軌道測定の方法を創案、最小二乗法を応用して観測値の計算がされている。『整数論』と並ぶ代表的な著作である。

15. Epitome astronomiae Copernicanae usitata forma quaestionum & responsionum conscripta : inque VII libros digesta, quorum tres hi proiores sunt de doctrina sphaericâ. / [Kepler, Johannes]

ドイツの天文学者ヨハネス・ケプラーによる「コペルニクス天文学」の解説書。ケプラーはそれまで真円の軌道を描いていた惑星の公転軌道が楕円形であることを提唱し、地動説の完成に貢献した。これは現在「ケプラーの法則」と呼ばれる惑星運動の三つの法則のうちの第一法則にあたる。本書は出版後直ちにローマ教皇庁によって禁書とされ、1835年まで禁書目録に載せられていた。

16. De stella nova in pede serpentarii, et qui sub ejus exortum de novo iniit, Trigono Igneo : libellus astronomicis, physicis, metaphysicis, meteorologicis & astrologicis disputationibus, εν δόξοιζ & παραδόξοιζ plenus, accesserunt / Joannis Keppleri

ケプラーによる天文学の書。1604年の秋にへびつかい座に出現した超新星 SN 1604 についての論文。当時神聖ローマ帝国皇帝ルドルフ二世に仕えていたケプラーは、帝国の首都プラハでこの現象を観測した。現在では「ケプラーの超新星」として知られるこの超新星は、銀河系内で確実に観測された最後の恒星爆発現象である。

17. 改正天文圖説(カイセイ テンモン ズセツ)

江戸時代に作成された星図。28 宿を用いた中国系統の星図に、日本で独自に星座を付け加えたもの。

18. Spaerae mvndi cõpendiú Foeliciter inchoat / Iohannes

13 世紀イギリスの天文学者ヨハネス・ド・サクロボスコによる天文学書。『天球論』の名で知られる。プトレマイオスによる天動説を中心に、天文学について解説した書。後期中世の多くの大学で標準的な教科書として使用された。

動物・植物学

19. An account of some new microscopical discoveries : founded on an examination of the calamary, and its wonderful milt-vessels, (each of which tho' they exceed not an horsehair in diameter, contains a minute apparatus analogous to that of a pump, with a fine spiral spring, sucker, barrel, &c.) tending to prove by an accurate description of their motion, action, &c. that the hitherto supposed animalcules in the semen of animals, are nothing more than machines similar, tho' inconceivably less, to those discovered in this sea-production / John Tuberville Needham

イギリスの生物学者ジョン・ニーダムによる顕微鏡を使用した新しい発見(動物発生論)について刊行されたものである。

20. D'Amboinsche rariteitkamer, behelzende eene beschryvinge van allerhande zoo weeke als harde schaalvisschen, te weeten raare krabben, kreeften, en diergelyke zeedieren, als mede allerhande hoorntjes en schulpen, die men in d'Amboinsche Zee vindt : daar benevens zommige mineraalen, gesteenten, en soorten van aarde, die in d'Amboinsche, en zommige omleggende eilanden gevonden worden / beschreven door Georgius Everhardus Rumphius

ドイツの植物学者でオランダ東インド会社の職員だったゲオルク・ルンフィウスによる現インドネシアのアンボン島の動植物誌。『アンボイナ珍品集成』とも呼ばれている。

21. Notes on the Fertilization of Orchids / by Charles Darwin

イギリスの生物学者ダーウィンが蘭の受精の仕組みについて雑誌”The Annals and Magazine of Natural History”に寄稿した論文を製本したものである。

22. On the origin of the species by means of natural selection : or, The preservation of favoured races in the struggle for life / by Charles Darwin

イギリスの生物学者ダーウィン著『種の起源』。生物は自然淘汰によって適者が生存し、それが蓄積されて進化すると唱えたもの。進化論の最も重要な古典といわれている。

23. Temple of Flora / [Doctor Thornton]

イギリスの医師ロバート・ジョン・ソーントンによる植物の図版集。ソーントンが感銘を受けたカール・フォン・リンネによる植物分類学を解説するための図鑑で、図版は銅版面に彩色したものである。本書は 1804 年に出版された初版の縮小版にあたる。翻訳書に荒俣宏編著『フローラの神殿』がある。

24. Plantes du Japon . Plantes nouvelles du Japon . Exposition en vente : a prix fixes de plantes du Japon, ouverte de 1. avril au 15. Juin 1866 . Catalogue et prix-courant des plantes, cultivées dans le jardin d'acclimatation . Sur l'état de l'horticulture au Japon : et sur l'importance des plantes usuelles et d'ornement introduites et cultivées, dans le jardin d'acclimatation / F. von Siebold

シーボルトはドイツの医者・博物学者。1823 年、オランダ商館の医師として来日。帰国後、『日本』(Nippon, 1832-52)、『日本動物誌』(Fauna Japonica , 1833-50)、『日本植物誌』(Flora Japonica, 1835-70)などを出版した。本書は 1866 年に発行された『オランダ国ライデン市におけるシーボルトの気候馴化園で栽培された日本の植物の説明付き目録の要約と価格表』を含む 5 冊を合本して 1867 年に刊行したものである。

25. *Flora Japonica : sive, Plantae, quas in imperio Japonico collegit, descripsit / ex parte in ipsis locis pingendas curavit Ph. Fr. de Siebold. Regis auspiciis edita. Sectio prima continens plantas ornatui vel usui inservientes. Digessit J. G. Zuccarini*

シーボルトが日本で収集した植物標本や、川原慶賀などの日本人絵師が描いた下絵をもとに作成され、植物学者ツッカーニーが解説を共著。天保 6(1835)年から明治 3(1870)年にかけて 30 分冊として刊行、当館は 30 分冊のうち第 1 分冊から第 25 分冊まで所蔵している。翻訳書に『日本植物誌』(Flora Japonica) などがある。

26. *Flora Japonica : sistens plantas insularum Japonicarum / Carl Peter Thunberg*

ツンベルクはスウェーデンの薬学者・医学者・植物学者。長崎出島に外科医として滞在。桂川甫周・中川淳庵らを指導し、日本の植物学・博物学の発展に貢献。シーボルト以前における日本研究の第一人者。帰国後、本書『日本植物誌』を出版した。

27. *Flora vitiensis : a description of the plants of the Viti or Fiji Islands with an account of their history, uses, and properties / by Berthold Seemann ; with one hundred plates by Walter Fitch*

ドイツの植物学者バートホルト・カール・ジーマンによるフィジー諸島の植物誌。ジーマンは 1859 年にフィジー諸島を訪れ、植生の調査にあたった。挿絵はイギリスの植物画家ウォルター・フィッチによる。

28. *Collection des orchidées les plus remarquables de l'Archipel Indien et du Japon / par Ch.L. de Blume*

ドイツの植物学者カール・ルードヴィッヒ・ブルームによる蘭と日本及びインドネシアの稀少植物について刊行されたものである。ブルームはオランダのライデン大学で学び、1818 年にバダヴィア(現ジャカルタ)へ派遣された。後にジャワ島のボゴールで植物園に勤め、数千種類に及ぶ植物標本を収集した。オランダへの帰国後はシーボルトと共同で園芸に関する協会を立ち上げるなどしている。

医学

29. *Anatomische Tabellen nebst darzu gehörigen Anmerkungen und Kupfern : daraus des ganzen menschlichen Körpers Beschaffenheit und Nutzen deutlich zu ersehen / welche den Anfangern der Anatomie zur bequemen Anleitung verfasst hat Johann Adam Kulmus*

ドイツの解剖学者ヨハン・アダム・クルムスによる解剖学の書。ドイツ語で書かれたこの本のオランダ語訳版が、杉田玄白らによる『解体新書』の底本となった。当館はラテン語版『Tabulae anatomicae』も所蔵している。

30. 解體新書(カイトイ シンシヨ) / 與般亞覃闕兒武思撰 ; 杉田玄白譯 ; 小田野直武画

ドイツの解剖学者クルムス(與般亞覃闕兒武思/ヨハン・アタン・キュルムス)の著書『Anatomische Tabellen』のオランダ語訳版『Ontleedkundige Tafelen』を杉田玄白らが日本語に翻訳した解剖学の書。序圖判例に「打係縷亞那都米(ターヘル・アナトミイ)」と表記があり、一般に本書は『ターヘル・アナトミア』と呼ばれている。

31. 十四經絡發揮和解(ジュウシ ケイラク ハッキ ワカイ) / 岡本一抱解

江戸時代中期の医者岡本一抱(オカモト イッポウ)が中国の医学書『十四經發揮(ジュウシケイ ハッキ)』をまとめ、鍼灸に用いられる経路・経穴について解説されている。本書は元禄6(1693)年に出版されたもの。

技術

32. P. Gasparis Schotti regiscurianie societate jesu, Olim in Panormitano siciliæ, nunc in Herbipolitano Franconiæ Gymnasio ejusdem societatis jesu matheseos professoris, Technica curiosa, sive Mirabilia artis, libris XII. comprehensa; quibus varia experimenta, variaque technasmata pnevmatica, hydraulica, hydrotechnica, mechanica, graphica, cyclometrica, chronometrica, automatica, cabalistica, aliaque artis arcana acmiracula, rara, curiosa, ingeniosa, magnamque partem nova & antehacinaudita, eruditi orbis utilitati, delectationi, disceptationique proponuntur. ad eminentissimum S.R.I. principem Joannem Philippum Elector. Mogunt. Cum figuris aeri insisis, & privilegio / P. Gasparis Schotti

アタナシウス・キルヒャーの弟子であったドイツのイエズス会司祭ガスパール・ショットによる技術書。1654年にオットー・フォン・ゲーリケが行った真空状態の二つの半球を16頭の馬に外させるといふいわゆる「マグデブルクの半球」の実験などが紹介されている。アタナシウス・キルヒャーについては展示資料3を参照。

33. 機巧圖彙(キコウ ズイ) / 細川半蔵頼直著

からくり作者であった細川頼直(ホソカワ ヨリナオ)が、寛政8年(1796)年に、茶運(ちゃはこび)人形・鼓笛児童など、からくりの構造の図解、材料、組み立て法などについて解説している。首巻は時計、上下巻はぜんまい・重力などを応用した玩具の製作内容となっている。

34. Theatrvm instrvmentorvm et machinarum Iacobi Bessoni ... / Cum Franc. Beroaldi figurarum declaratione demonstratiua ; [Besson, Jacques]

フランスの技術家ジャック・ベッソンによる機械類の便覧『機械の劇場』。1569年に出版されたが、本書はその1578年版である。

35. 鼓銅圖録(コドウ ズロク) / 増田綱撰 ; 丹羽桃溪画

大坂の住友銅吹所(どうふきしょ)を訪問する高官たちの参観用案内書として、住友家が編纂した江戸時代の代表的な鉱業史の書。当時の吹所支配人であった増田綱(マスタ ツナ)が解説を書き、丹羽桃溪(ニワ トウケイ)によって、銅山と大坂銅吹所における採鉱、溶鉱、銅鉛の吹合せなどの諸工程、使用する精錬用諸道具をわかりやすく描いている。

36. Georgii Agricolae De re metallica : libri XII. quibus officia, instrumenta, machinae, ac omnia deni ad metallicam spectantia, non modo luculentissimè describuntur, sed & per effigies, suis locis insertas, adiunctis latinis, germanicis appellationibus ita ob oculos ponuntur, ut clarius tradi non possint. Eiusdem De animantibus subterraneis liber, ab autore recognitus: cum indicibus diuersis, quicquid in opere tractatum est, pulchrè demonstrantibus. / [Agricola, Georg]

ドイツの鉱山学者ゲオルク・アグリコラによる採鉱・冶金技術の書。1556年スイスでラテン語版が出版、続いてドイツ・イタリア語版などでも出されているが、1912年版のフーバー(元米国大統領)夫妻の英訳により広まっていった。300葉に近い挿絵はゲーテが賞賛するほど美しく、当時の鉱山業の様子をよくあらわしている。翻訳書に『近世技術の集大成: デ・レ・メタリカー全訳とその研究』がある。

建築

37. L'idea della architettura universale / di Vincenzo Scamozzi ... diuisa in X libri .. ; [Scamozzi, Vincenzo]

ヴェネツィア共和国で活動し、ルネサンス期最後の建築家と呼ばれるヴィンチェンツォ・スカモッツィが著した未刊の建築理論書。1615年刊行。ヨーロッパでは各国語に翻訳され、後の建築に影響を与えた。出身地であるヴィチェンツァで、多くの邸宅の建設を手がけた建築家アンドレア・パッラーディオを崇拝していたスカモッツィは、パッラーディオの死後、彼が手がけていた建築計画のいくつかを引き継いで完成させており、この著書にもパッラーディオの影響が色濃く現れている。

38. Libro d'Antonio Labacco appartenente a l'architettura : nel qual si figvrano alcune notabili antiqvita di Roma / [Labacco, Antonio] . Regola delli cinque ordini d'architettura / di M. Iacomo Barozzio da Vignola

16世紀イタリアの建築家アントニオ・ラバッコによる建築論文集と、マニエリスムを代表する建築家ジャコモ・バロツィ・ダ・ヴィニョーラによる古典建築様式について刊行されたものである。

39. Reigle generale d'architecture des cinq manieres de colonnes, à scauoir, Tuscanes, Dorique, Ionique, Corinthe, & Cōposite ... / a escouën par Iehan Bullant

フランス風のルネサンス建築を設計した建築家ジャン・ビュランによるイオニア式・コリント式などの建築様式について 1568 年に刊行されたものである。

40. M. Vitruvius per locvndvm solito castigatior factvs cvm figvris et tabvla, vt iam legi et intelligi possit

ローマの建築家ウィトルウィウスによる建築書。ラテン語版。著者ウィトルウィウスは紀元前 1 世紀のローマの建築家、技術者。ローマ皇帝アウグストゥス(在位 B C 27 ~ A D 14) の時代に活躍したとされるが、『建築十書』(De architectura libridecem) の著者であるということ以外、その生涯などは知られていない。

41. Les plans, profiles, et elevations, des ville, et Château de Versailles, avec les Bosquets, et Fontaines tels quils sont a present; levez sur les lieux; dessiner et graver en 1714 et 1715 / [levez & gravez par Pierre Le Pautre]

フランスの彫刻家・室内装飾家ピエール・ル・ポートルによる 1715 年刊行のヴェルサイユ宮殿の平面図、断面図などの図版集である。

42. I quattro libri : dell' architettura / di Andrea Palladio ; ne' quali, dopo un breue trattato de' cinque ordini, & di quelli auertimenti, che sono piu necessarii nel fabricare ; si tratta delle case private, delle vie, de i ponti, delle piazze, de i xisti, et de' tempii ; con privilegio

イタリア・ルネサンス後期を代表する建築家アンドレア・パッラーディオによる建築理論書。1570 年刊行。『建築四書』の名で知られる。パッラーディオ自身の設計した建築物の図面など、多くの挿絵が載せられている。本書に書かれた理論は後にパッラーディオ主義と呼ばれる建築様式の一つとなった。イタリア北部の都市ヴィチエンツァの世界遺産「ヴィチエンツァ市街とヴェネト地方のパッラーディオのヴィツラ」は、パッラーディオの手がけた建築群である。パッラーディオは他にヴェネツィアのサン・ジョルジョ・マッジョーレ聖堂などを手がけている。

参考文献

- ◇ 『ナポレオンエジプト誌』 タッシェン・ジャパン , 2002
- ◇ 『近代科学の黎明：コペルニクス、ニュートン、そしてキルヒャー』
慶応義塾図書館 , 2005
- ◇ 『プリニウスの博物誌』 プリニウス著, 中野定雄ほか訳 雄山閣 , 2012
- ◇ 『和算の事典』 佐藤健一監修, 山司勝紀・西田知己編集 朝倉書店 , 2009
- ◇ 『日本植物誌：シーボルト「フローラ・ヤポニカ」』 木村陽二郎, 大場秀章解説
八坂書房 , 2000-2007
- ◇ 『璣訓蒙鑑草・機巧図彙』 恒和出版 , 1976
- ◇ 『佐州金銀採製全図・先大津阿川村山砂鉄洗取之図・鼓銅図録』 恒和出版 , 1976
- ◇ 『ウィトルーウィウス建築書』 森田慶一訳註 東海大学出版会 , 1979
- ◇ 『近世技術の集大成：デ・レ・メタリカー全訳とその研究』 アグリコラ著, 三枝博音訳著,
山崎俊雄編 岩崎学術出版社 , 1968
- ◇ デジタル大辞泉, ジャパンナレッジ(オンラインデータベース)
- ◇ 日本大百科全書, ジャパンナレッジ(オンラインデータベース)
- ◇ 日本国語大辞典, ジャパンナレッジ(オンラインデータベース)
- ◇ 日本人名大辞典, ジャパンナレッジ(オンラインデータベース)

科学と技術の古典 ー付属図書館特別図書展ー

2014年7月3日 発行

著 者ー東海大学付属図書館

印 刷ー事務部 業務管理課（印刷担当）

発行者ー東海大学付属図書館

<http://www.time.u-tokai.ac.jp/>

〒259-1292 平塚市北金目4丁目1番1号

電話 0463-58-1211 (代)
